

17. 東高橋 3-3 の遺跡

東高橋 3-3 は芳賀町の東南部、五行川と野元川の氾濫によって形成された沖積地に位置する。東側は市貝町と接している。大部分が水田になっている。

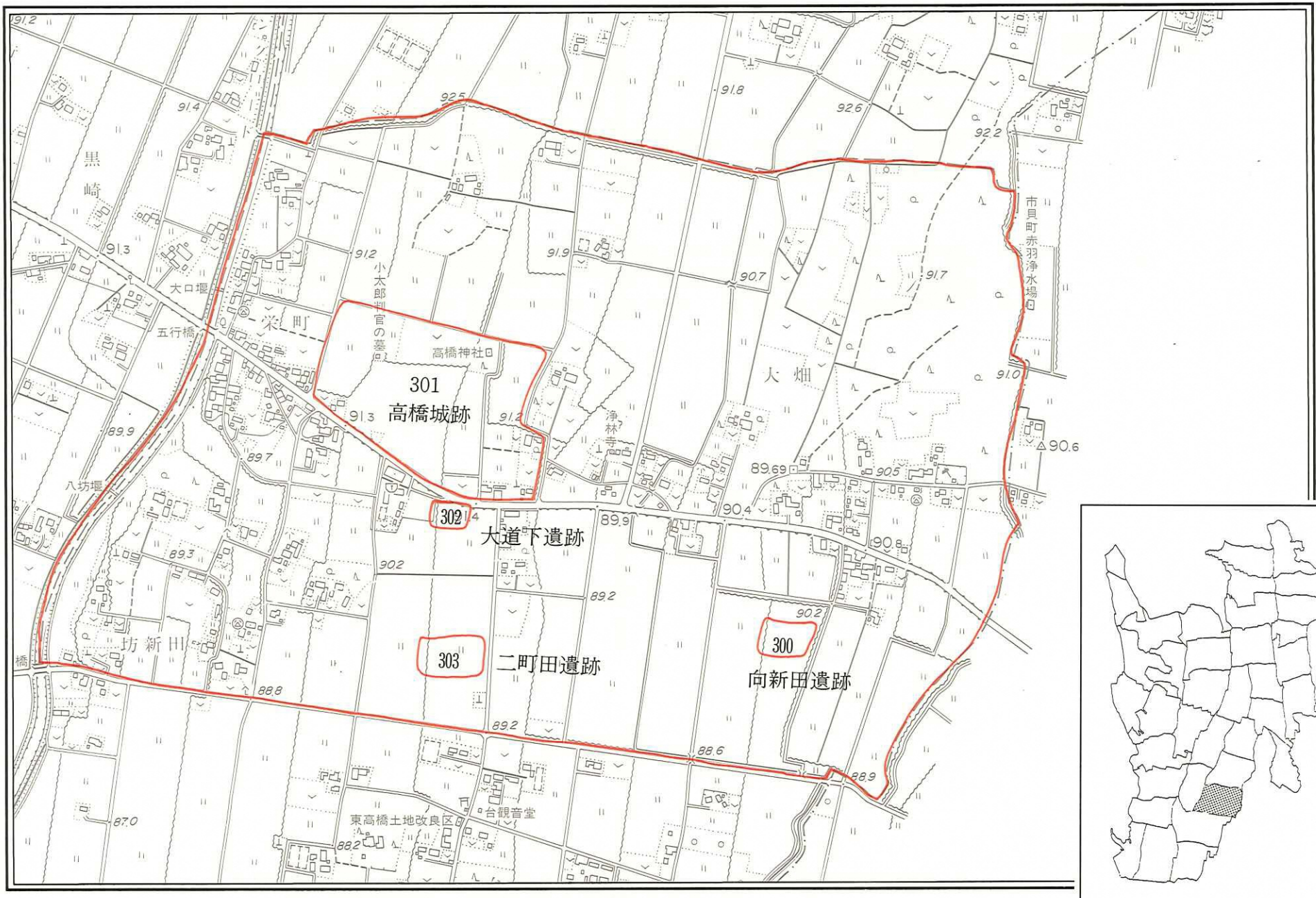
本地域には周知となっている高橋城跡があり、今回の調査では向新田遺跡・大道下遺跡・二町田遺跡の 3 遺跡が確認された。

高橋城は、五行川左岸の台地上に立地する中世の館跡である。延文年間（14 世紀半ば）に宇都宮氏の家臣高橋小太郎義通の築城によるものである。すぐ近くを国道 123 号線が走っている。本城は高橋神社の南面に築かれ、付近には小太郎の墓と伝えられる五輪塔がある。土塁や堀など往時を物語るものはほとんど残っていない（橋本 1998）。

向新田遺跡は五行川左岸の低地に立地する遺跡で、遺物量も少なく、出土している面積も狭い範囲である。大道下遺跡は国道 123 号線を挟んで高橋城跡に隣接する遺跡である。陶器片が採集できることから城跡との関連が考えられる。二町田遺跡は五行川左岸の微高地に立地する小規模な遺跡である。少量の土器片（陶器等）が出土していることから中世の遺跡の可能性が考えられる。

（大島美智子）

芳賀町遺跡番号	遺跡名	所在地	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世以降	種類	立地	現状
300	向新田遺跡	東高橋字向新田3491他					○			散布地	低（湿）地	田
301	高橋城跡	東高橋字神ノ西1259他						○		城館跡	微高地・台地	田
302	大道下遺跡	東高橋字大道下3407他						○		散布地	低（湿）地	田
303	二町田遺跡	東高橋字二町田980他						○		散布地	低（湿）地	田



東高橋3-3の遺跡分布図

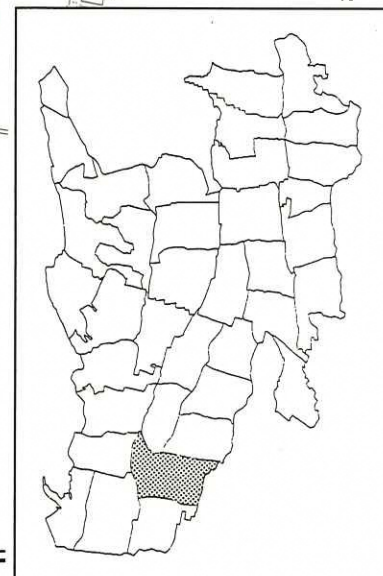
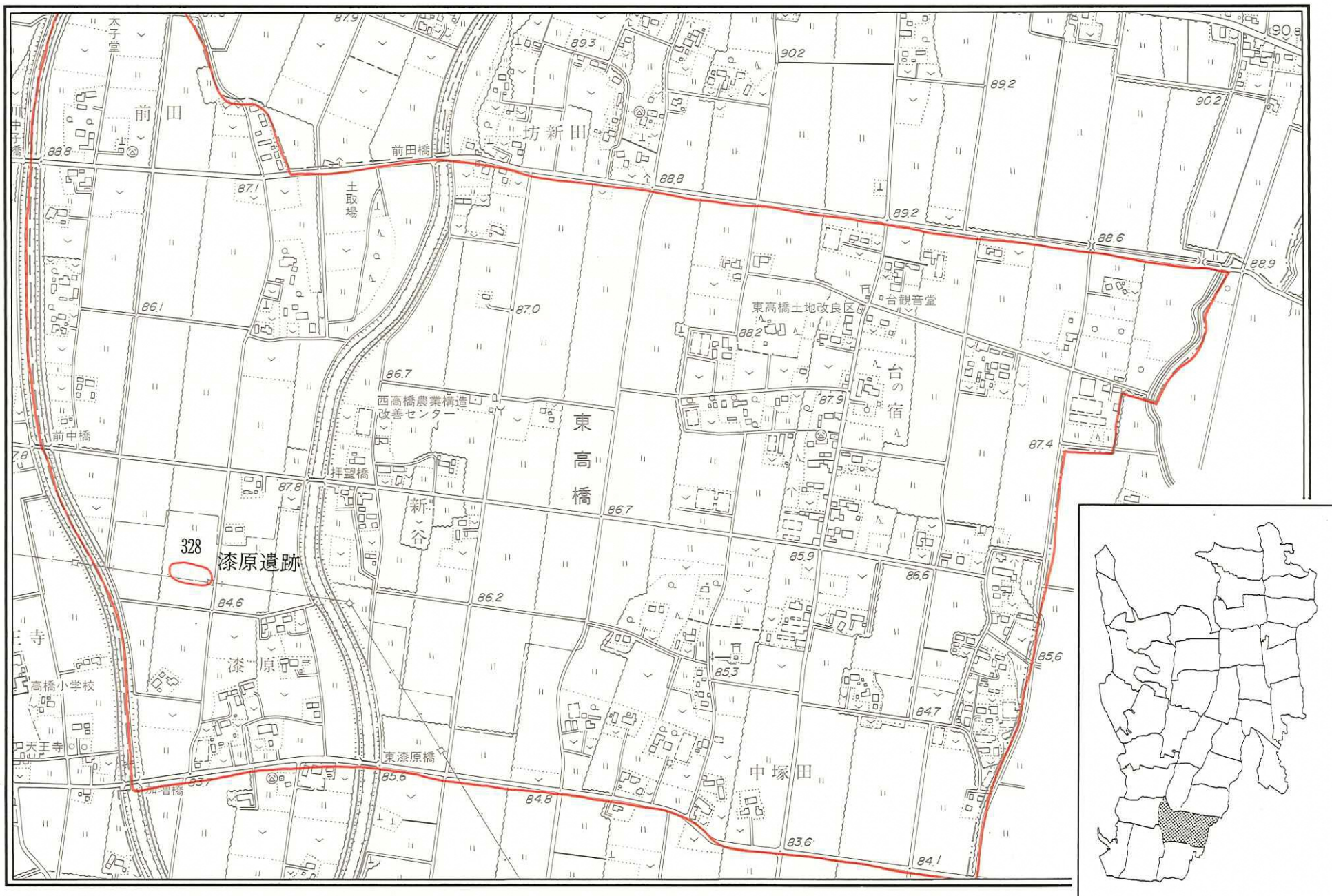
18. 東高橋 3-2 の遺跡

東高橋 3-2 は芳賀町域の南部にあたる。本地域は、中央やや西寄りに五行川、西縁に野元川がそれぞれ南流し、これらの河川によって形成された五行川低地に位置する。東は祖母井台地が接する。大部分は水田として利用されている。

東高橋 3-2 ではわずかに漆原遺跡が確認されているのみである。本遺跡は野元川左岸の低地に立地しており、古銭が採集された。

遺跡が多数確認される本町において、当地域は唯一空白地帯となるが、開田の影響によって消滅し、発見することが不可能となった遺跡も少なくないものと考えられる。
(平久保直希)

芳賀町遺跡番号	遺跡名	所在地	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世以降	種類	立地	現状
328	漆原遺跡	東高橋字登戸390							○	墓地跡か	低(湿)地	田



東高橋3-2の遺跡分布図

19. 東高橋 3-1 の遺跡

東高橋 3-1 は芳賀町域の南東端部にあたり、五行川左岸の五行川低地に位置する。野元川と五行川の合流地点があり、沖積地が一大水田地帯となっている。南側は市貝町に接している。

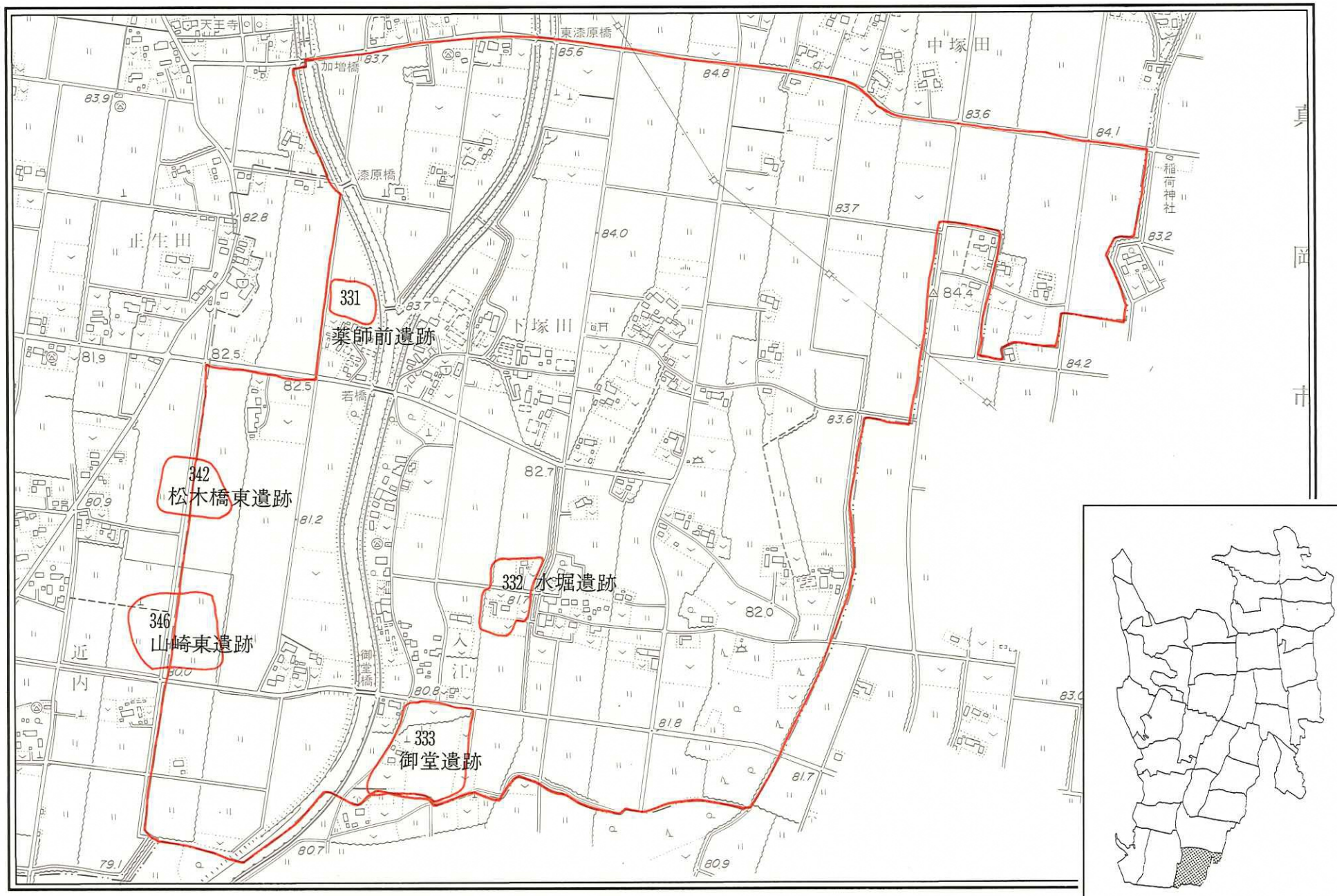
本地域には、これまで周知の遺跡は存在しなかったが、今回新たに薬師前遺跡・水堀遺跡・御堂遺跡の 3 遺跡を確認することができた。次に主要な遺跡の紹介をしたい。

薬師前遺跡は、野元川と五行川の合流点右岸の微高地上に位置する小規模な遺跡である。表採の結果、古墳時代の遺物が採集できた。遺物の量は少ないが、立地的に見て重要な遺跡である。

御堂遺跡は、五行川左岸微高地上に立地する。すぐ近くに御堂橋があり、現状は畑地・宅地・墓地になっている。表採の結果、比較的多量の縄文土器片（堀之内Ⅰ式）・少量の土師器片・須恵器片が採集できた。南西部には、芳賀郡衙跡（真岡市京泉）があり、奈良・平安時代の集落跡とも考えられる。「芳賀町の歴史」（埴 1983）にみえる入江遺跡と同一になる可能性もある。

（大沼正代）

芳賀町遺跡番号	遺跡名	所在地	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世以降	種類	立地	現状
331	薬師前遺跡	東高橋字薬師前138他				○				散布地	微高地	田
332	水堀遺跡	東高橋字水堀2549他					○			散布地	低（湿）地	田・宅地
333	御堂遺跡	東高橋字御堂2660他		○			○			集落跡	微高地	畑



東高橋3-1の遺跡分布図

34. 西高橋 3-3 の遺跡

西高橋 3-3 は芳賀町の南西部にあたり、東側が五行川低地に立地し、西側が宝積寺台地に立地している。

本地区は周知の遺跡として双六台遺跡・ジャンボ塚西遺跡・太閤塚古墳群があり、今回新たに雷遺跡・雷北遺跡の 2 遺跡を確認した。

双六台遺跡は宝積寺台地の丘陵状の部分に立地し、土師器が採集されており、古墳時代～奈良・平安時代にかけての遺跡である（埴 1963）。

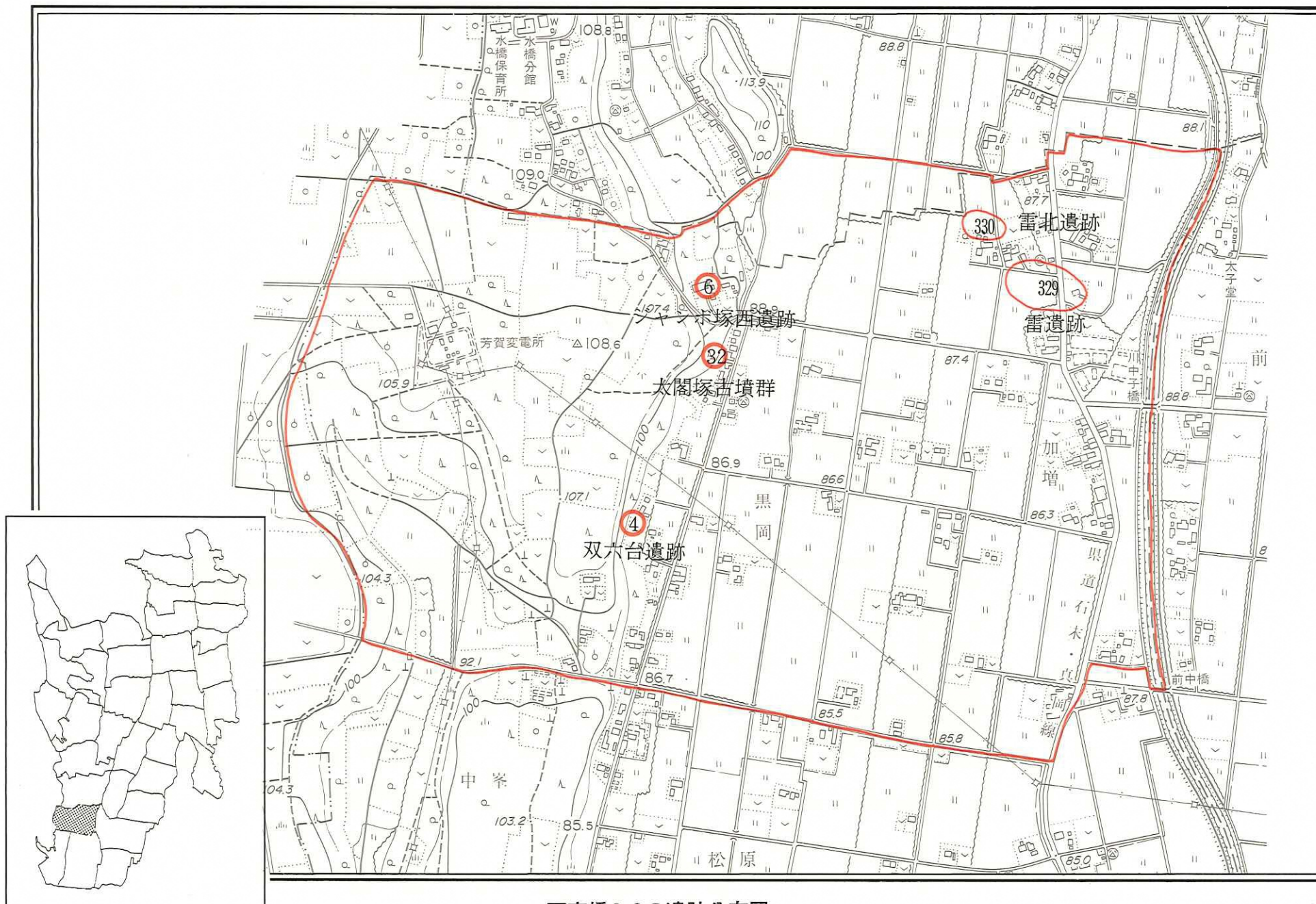
ジャンボ塚西遺跡も宝積寺台地の丘陵状の部分に立地し、土師器が採集されており、古墳時代～奈良・平安時代にかけての遺跡である（埴 1963）。

太閤塚古墳群は直径 23.5m、高さ 3 m の円墳である太閤塚を主墳とする円墳 4 基からなる古墳群で開田の際に鎧、甲出土している（屋代 1980）。

太閤塚古墳群と双六台遺跡・ジャンボ塚西遺跡は埴氏によれば「古墳の所在地が必ずしも当時の居住地域であるとは断定できないが、当時の居住地域に近い所を選んで墳墓が営まれたものと推定する」として、これらの遺跡があげられている（埴 1963）。

新発見の雷遺跡・雷北遺跡は五行川低地の微高地の部分に立地しており、雷北遺跡では縄文土器を採集しているが、ほとんどは土師器・須恵器であり、奈良・平安時代の遺跡と考えられる。（塩谷慎介）

芳賀町遺跡番号	遺跡名	所在地	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世以降	種類	立地	現状
4	双六台遺跡	西高橋字双六台				○	○			集落跡	丘陵	畑・山林
6	ジャンボ塚西遺跡	西高橋字双六台				○	○			集落跡	丘陵	畑
32	太閤塚古墳群	西高橋字双六台				○				古墳群	台地	山林・墓地
329	雷遺跡	西高橋字雷42、43他					○			散布地	微高地	田
330	雷北遺跡	西高橋字雷25、27		○			○			散布地	微高地	田



西高橋3-3の遺跡分布図

35. 西高橋 3-2 の遺跡

西高橋 3-2 は芳賀町の南西部に位置し、五行川右岸、五行川と同川支流野元川の形成した沖積地および宝積寺台地上に位置する。南側は真岡市と接している。現状は水田や山林となっている。

本地域には県指定史跡である亀の子塚古墳や穴不動古墳・中峯古墳群・オザク山古墳・中峯遺跡がある。今回の調査では向林遺跡・沖久保遺跡・上り戸遺跡の 3 遺跡が確認された。

亀の子塚古墳は五行川と鬼怒川に挟まれた真岡台地の東端に位置する前方後方墳である。全長 56.3m、後方部長約 33m・幅約 31.5m、前方部長約 23.3m・幅約 17.3mで南面して造られている。前方部と後方部の比高差があり、前方部が未発達なのが特徴である。現在は後方部の墳頂が削平され、行事神社が祀つられている。本町の中でも最も古い 4 世紀中頃の古墳として位置づけられている（埴 1983）。

穴不動古墳は亀の子塚古墳の南方にあり、五行川・野元川の沖積低地をのぞむ宝積寺段丘の東端に位置する前方後円墳である。本町の最南端に築造されているもので真岡市に隣接している。全長約 30mで南面して造られている。かなりひどく破壊されていて、後円部には横穴式石室（河原石積）が露呈している。現在ここには穴不動（不動明王像）が祀つられている（埴 1983）。

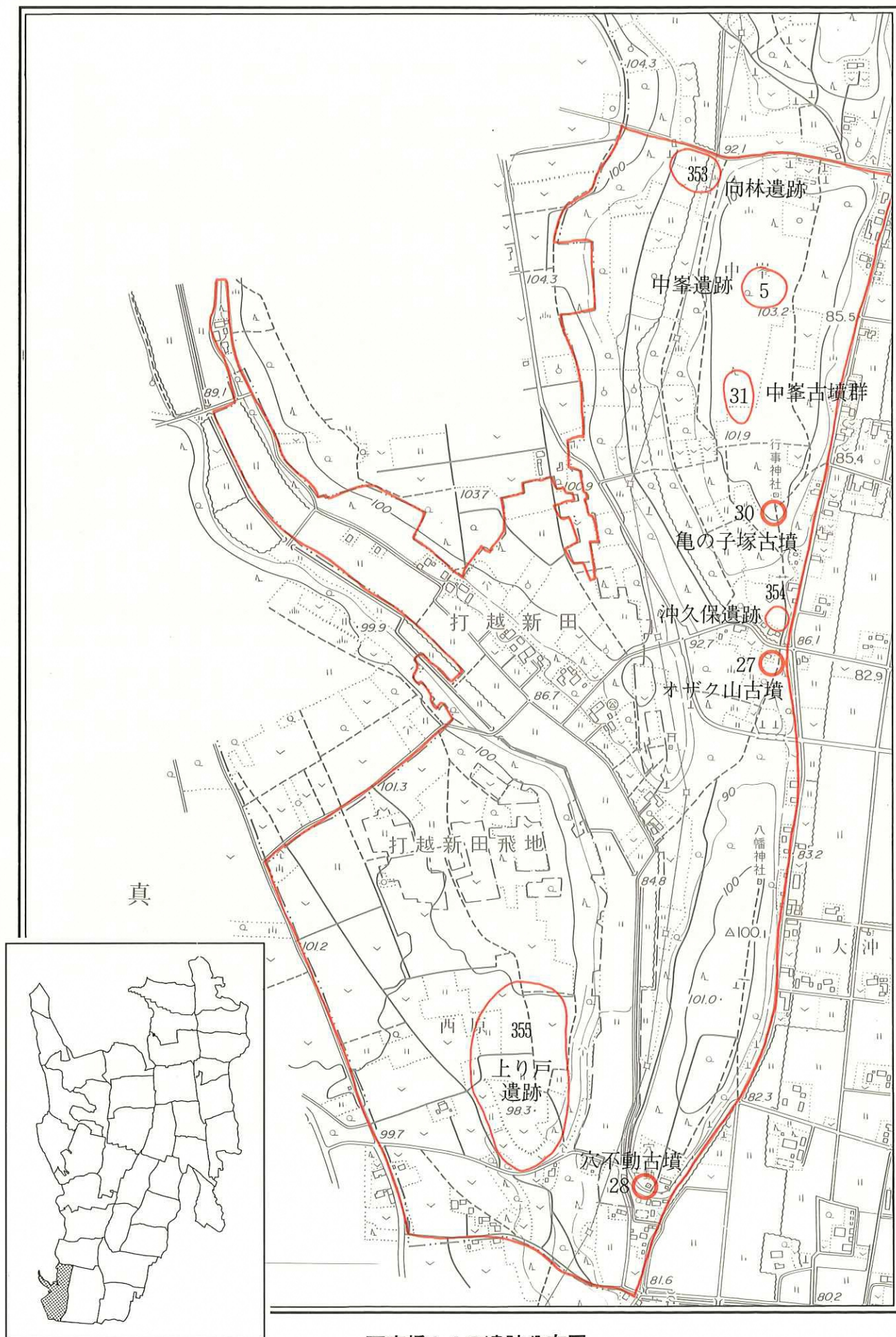
中峯古墳群は円墳 6 基からなる古墳群で、愛宕塚はその主墳にあたる。直径 25m、高さ 3.5mである。他は直径 16～25mである。オザク山古墳は宝積寺台地の東端に位置する円墳である。亀の子塚古墳の南方に位置している。

中峯遺跡は中峯古墳群の北方にあり、同古墳群との関係が指摘されている古墳時代の集落跡である。

向林遺跡・沖久保遺跡からは少量の土師器片が確認された。上り戸遺跡からは縄文中期の土器片と磨石が広範囲に散布していた。縄文時代の大規模な集落跡であることが確認できた。

（大島美智子）

芳賀町遺跡番号	遺跡名	所在地	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世以降	種類	立地	現状
5	中峯遺跡	西高橋字中峯1683		○	○	○	○	○		集落跡	台地	畑
27	オザク山古墳	西高橋字中峯				○				古墳	台地	山林
28	穴不動古墳	西高橋字中峯				○				古墳	台地	山林
30	亀の子塚古墳	西高橋字中峯				○				古墳	台地	神社
31	中峯古墳群	西高橋字中峯				○				古墳群	台地	山林
353	向林遺跡	西高橋字向林1609					○			集落跡	台地	畑
354	沖久保遺跡	西高橋字沖久保1359				○				散布地	台地	宅地
355	上り戸遺跡	西高橋字上り戸1007、 庚申塚4506-1他		○						集落跡	台地	畑



西高橋3-2の遺跡分布図

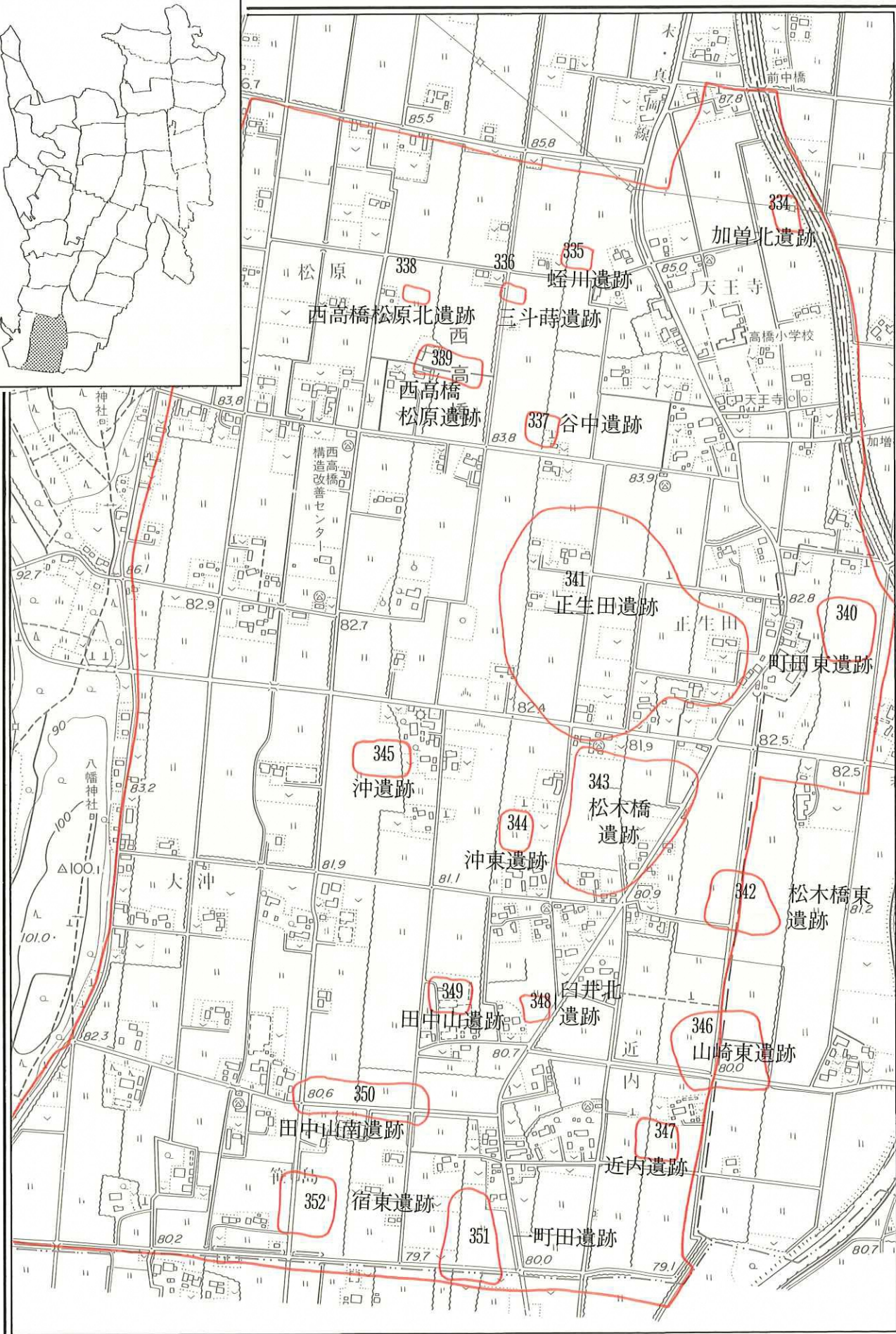
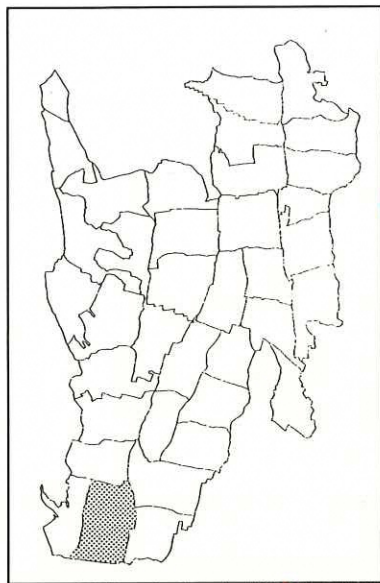
36. 西高橋 3-1 の遺跡

西高橋 3-1 は芳賀町の南西部にあたり、南側は真岡市に接している。五行川低地上に立地している。

本地区には周知の遺跡はなく、新発見の 19 遺跡がある。それは加曽北遺跡・蛭川遺跡・三斗蔦遺跡・谷中遺跡・西高橋松原北遺跡・西高橋松原遺跡・町田東遺跡・正生田北遺跡・松木橋東遺跡・松木橋遺跡・沖東遺跡・沖遺跡・山崎東遺跡・近内遺跡・臼井北遺跡・田中山遺跡・田中山南遺跡・一町田遺跡・宿東遺跡である。全て遺跡は五行川低地の微高地部分に立地しており、奈良・平安時代から中世にかけての遺跡が多い。注目される遺跡を紹介したい。三斗蔦遺跡では瓦を採集している。芳賀郡衙と推定される真岡市塔法田遺跡との位置関係をふまえると官衙関連遺跡の可能性もある。なお、周辺に西高橋松原遺跡・西高橋松原北遺跡があり、同一遺跡の可能性もある。沖遺跡は五行川低地の微高地状になっている狭い範囲から縄文時代中期の加曽利 E IV 式土器を採集しており、現況は一面の水田であるが、かつては北北西から南南東にのびる台地であった可能性が高い。松木橋遺跡では古墳時代前期の土師器が出土しており、隣接する正生田北遺跡とともに大規模な集落跡の可能性が高い。また、松木橋東遺跡・山崎東遺跡・近内遺跡、田中山遺跡・田中山南遺跡は同一の集落遺跡の可能性が高い。遺物としては土師器・須恵器・陶器等である。

(塩谷慎介)

芳賀町遺跡番号	遺跡名	所在地	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世以降	種類	立地	現状
334	加曽北遺跡	西高橋字加曽3501他						○		散布地	微高地	田
335	蛭川遺跡	西高橋字蛭川399					○			散布地	微高地	田
336	三斗蔦遺跡	西高橋字三斗蔦508他					○			散布地	微高地	田
337	谷中遺跡	西高橋字谷中534					○			散布地	微高地	田
338	西高橋松原北遺跡	西高橋字松原484					○			散布地	微高地	田
339	西高橋松原遺跡	西高橋字松原2255他						○		散布地	微高地	田
340	町田東遺跡	西高橋字町田2524他					○			散布地	微高地	田
341	正生田北遺跡	西高橋字正生田2009他				○	○			集落跡	微高地	田
342	松木橋東遺跡	西高橋字松木橋1878他					○	○		散布地	微高地	田
343	松木橋遺跡	西高橋字松木橋602他				○	○			集落跡	微高地	田・宅地
344	沖東遺跡	西高橋字沖719他						○		散布地	微高地	田
345	沖遺跡	西高橋字沖1300他		○						散布地	微高地	田
346	山崎東遺跡	西高橋字山崎東589他					○	○		散布地	微高地	田
347	近内遺跡	西高橋字近内20-1他					○			散布地	微高地	田
348	臼井北遺跡	西高橋字臼井北545						○		散布地	微高地	田
349	田中山遺跡	西高橋字田中山696-1他					○			散布地	微高地	田
350	田中山南遺跡	西高橋字田中山496他					○	○		集落跡	微高地	田
351	一町田遺跡	西高橋字一町田130-1他		○			○	○		集落跡	微高地	田
352	宿東遺跡	西高橋字宿202他					○	○		集落跡	微高地	田



西高橋3-1の遺跡分布図